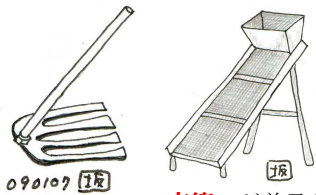


センター17 江戸の経済と社会

Ⅰ受験の極意 農業農民史 Part II

新田開発 幕府や諸藩は、経済の安定や年貢の増収を目的に、農業振興策を進めた。大きなものが新田開発で、田畑の耕作を妨げないことを条件に開拓された。幕府の代官が開発可能な土地を見つけて開拓する⇒**代官見立** 新田、藩の主導で開発を行なった藩営新田、商人が資金を出して開発する⇒**町人請負** 新田などがある。特に町人請負新田は規模が大きく、越後紫雲寺湯新田が1万7000石、摂津川口新田が1万5000石である。

技術の発達



耕地の拡大と並んで、農業技術の進歩もめざましかった。農業経営は、狭い耕地に人力を集約的に投下する方法で行なわれた。それに応じて、農具も改良・発明された。深耕具は、⇒**備中鍬** が登場し、近世中期には全国に普及した。脱穀具は、⇒**千歯扱** が登場した。選別具は、17世紀後半に考案された⇒**千石碄**、中国から伝来した⇒**唐箕** が普及した。揚水機は、17世紀半ばに⇒**踏車** が考案され、竜骨車

やなげつるべに代わって普及した。

肥料

肥料も、厩肥・堆肥など自給肥料の他に、都市周辺部では⇒**下肥** {しもごえ：人の糞尿を肥料にしたもの} が使われた。また、金銭を払って買う肥料も普及した。⇒**金肥** である。金肥には、**油粕**・**麦粕**・**干鰯** がある。油粕は、油菜の菜種や綿花の種子などから油をしぼった粕である。麦粕は、鰯や鯨などの魚や胡麻・豆などから油をしぼり取った残り粕である。**干鰯**は、鰯や鯨を日干しにしたもので、速効性肥料として使われた。

農書

農書が数多く著わされ、農業技術と生産力の向上に大きな役割を果たした。宮崎安貞の『**農業全書**』は、日本初の体系的農学書で、見聞と体験に基づく農業技術を記した。⇒**大蔵永常**の『**農具便利論**』は、農具を図示して用法を記した。また、『**広益国産考**』は、作物の栽培法を述べ、商品作物の栽培と加工による農家の利益と国益を論じた。

Ⅱ受験の極意 農業農民史 Part III

農業生産力が高まった結果、農民が年貢米と来年の粃殻を除いて余った米を年で売ることになった。そして、生活にゆとりが出た農民は商品作物を栽培するようになり、生産物売って利益を得るようになった

商品作物は、商品として売るために栽培された農作物で、四木三草、綿花(木綿)・たばこ・野菜・甘蔗などが主なものである。四木三草は幕府や諸藩が重視した民間必需の商品作物で、**四木**が**桑**・**漆**・**茶**・**楮**、**三草**が**麻**・**藍**・**紅花**である。桑・楮・麻は全国的に栽培され、漆は**会津**、茶は山城や駿河、藍は**阿波**、紅花は⇒**出羽** が特に生産が多かった。また、各地に特産品も登場した。⇒**備後**の**蘭草**、甲斐のぶどう、紀伊のみかん、薩摩の**黒砂糖**、越前の奉書紙などである。

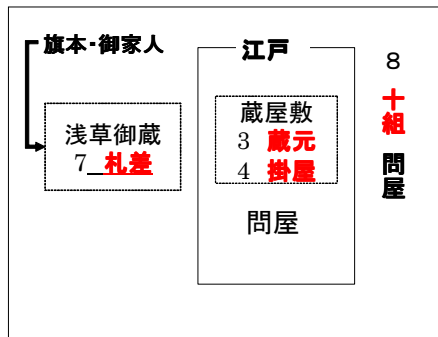
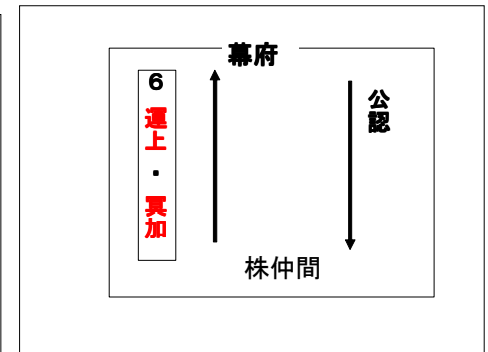
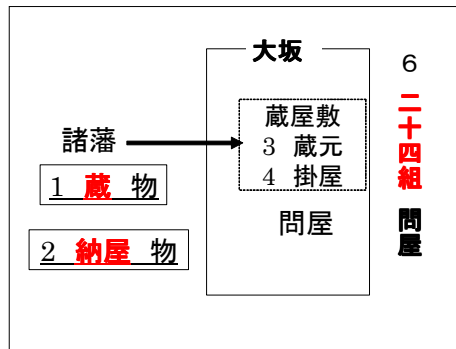
Ⅲ受験の極意 江戸時代の経済 Part1

A 商品の流通

①藩経由の商品を⇒**蔵物** というが、諸藩で徴収した年貢米(これを**蔵米**という)や特産物は、いったんは大坂にある各藩の⇒**蔵屋敷** に納められる。そして問屋を経由して商品として流通した。蔵屋敷で蔵物の出納や売却管理を扱った商人を⇒**蔵元** とい

い、売却代金の管理をしたのが⇒**掛屋** である。掛屋には蔵元兼任も多かった。また江戸で、蔵米取りの旗本・御家人の代理をして蔵米の取引や金融を扱う商人は⇒**札差** (蔵宿)と呼ばれた。一方、蔵物に対し、蔵屋敷を経由せずに民間の手を経由した物は⇒**納屋物** と呼ばれた。

②流通は、問屋⇒仲買⇒小売⇒消費者



Ⅳ受験の極意 江戸時代の経済 Part2

①市場 青物市⇒江戸⇒**神田** 魚市⇒江戸⇒**日本橋**
大坂⇒**天満** 大坂⇒**雑喉場**

②商人 三井高利 (松坂) ⇒江戸に出て呉服屋**越後屋** 開業
住友友芳 (大坂) ⇒1691年伊予**別子銅山** 開業、札差業も
淀屋辰五郎 (大坂) ⇒奢侈のため全財産没収

武器としての日本史

Pain is inevitable Suffering is optional

- 紀伊国屋文左衛門 (紀伊) → みかん・材木で巨富
- 奈良屋茂左衛門 (江戸) → 材木商、初代は日光東照宮修理で巨富
- 鴻池宗利 (大坂) → 海運・両替・掛屋・新田開発 (鴻池新田) で巨富

▽受験の極意 江戸時代の貨幣金融史 Part1

三貨 幕府が **金座**・**銀座**・**銭座** の三座を設けて **鑄造権を独占**し → **金貨** (数えて使う **計数貨幣**で大判は贈答用、小判は7~8両の価値)、→ **銀貨** (はかって使う → **計数貨幣**で **丁銀** や **豆板銀** などがあつた) → **銭貨** (計数貨幣) の → **三貨体制** を確立した。

※当時の一両は約8万円。

貨幣間の交換比率は 金1両=金4分=金16朱=銀50匁=銭4貫。相場により変動。

藩札 幕府の許可のもと、藩が発行した換金できない紙幣を **藩札** という。藩札はその藩内だけで通用し、三貨の不足や藩財政の窮乏を補うことを目的としていた。現存する最初の藩札は → **福井藩**。

金融 三都を中心に発達した、貨幣間の交換両替・秤量を主に行なう商人を **両替商** といつた。そのうち金貨と銀貨を交換していたのが **本両替** (大坂の鴻池屋や江戸の三井)、金・銀貨と銭貨を交換していたのが **銭両替** である。

貨幣流通 **江戸** の金遣い、**大坂** の銀遣い

貨幣改鑄

将軍	名称	鑄造者	内容
家康①	慶長金銀	後藤徳乗	幕府が最初に鑄造した貨幣
綱吉⑤	元禄金銀	荻原重秀	金銀の品質を下げた 悪貨 。これにより幕府は莫大な 出目 を得るがインフレを引き起こす。
家継⑦	正徳金銀	新井白石	慶長金銀と全く同じ質だが量が少ない。
吉宗⑧	元文金銀	吉宗	米価引き上げのための悪貨だったが、インフレを引き起こす。
家茂⑭	万延小判		金銀比価の違いから金の海外流出を防止するとともに比価調整のため (当時欧米の金銀比価 = 1 : 15 に対し日本 = 1 : 5)

▽受験の極意 江戸時代の産業史

水産業 (1)網を使った上方漁法が発達し、**九十九里浜**の地引網を使った**鰯漁**などが盛んに。
(2)製塩では、揚浜式塩田に代わり**入浜式塩田**が作られた。

特産品

場所	特産品	場所	特産品
薩摩	黒砂糖	木曾	檜
駿河・宇治	茶	秋田・吉野・熊野	杉

備後	蘭草	九十九里	鰯
京都	西陣織	紀伊・土佐	鯨
野田	醤油	奈良	晒
京都・桐生・足利	絹	尾張・河内・小倉	木綿

製紙 **美濃紙**、**鳥子紙** (越前)・**奉書紙**(越前)、**杉原紙** (播磨)

■陸上交通の発達

五街道は何か！にかかっている。下図 … **日本橋** 起点に書いてあるがこの図が全てといてよい。北国街道や中国街道は脇街道であつて五街道ではない。街道を管理するのは → **道中奉行** (大目付・勘定奉行から各1名が兼任)の支配であることは意外に出る。

▽五街道

初めは五海道と書いた。1716年、東海道は海端を通るから東海道、中仙道は中央の山道だから中山道、他の3道は海端も山地も経由しないから道中と呼ぶようになった。五街道以外に、脇街道があつた。脇街道は、五街道以外の脇道のことである。主なものに、伊勢街道・北国 {ほっこく} 街道・中国街道・長崎街道などがある。伊勢街道は、東海道四日市・石薬師宿の間から分岐した伊勢参宮のための街道である。北国街道は、江戸と佐渡を結ぶため、信濃追分 {おいわけ} で中山道と分かれて直江津に至る街道である。中国街道は、東海道に続く大坂・赤間関 {あかまがせき} 下関の陸路である。

4kmごとに **一里塚** が設置され **勘定奉行** が支配。 **人馬の数も重要**。しかし各宿に人足と馬を用意するのは誰なのかだ！人馬の数は早稲田大で出題されている。甲州道中の人馬の負担量はいくつかな？さあ答えてほしい。答えは人足 **25** 人、馬 **25** 疋だ。

東海道	53宿	人足100人	馬100疋
中山道	67宿	50	50
甲州道中	44宿	25	25
日光道中	21宿	25	25
奥州道中	10宿	25	25

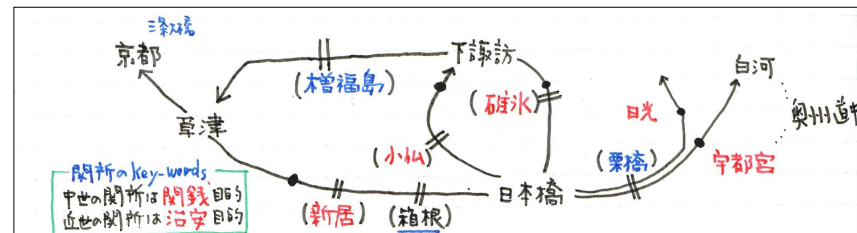
・関所 → 政治・軍事上の必要 → 手形が必要

江戸の防衛・大名の妻子の監視 “ **入鉄砲に出女** ”

※ 架橋しない川 (軍事上の理由)

ex. **大井川**、**安倍川** …川越人足 天竜川…渡船

▽関所



宿 駅

武器としての日本史

Pain is inevitable Suffering is optional

には大名が泊まる 本陣 などの宿が置かれる一方で、一般の人が宿泊する 旅籠 や 木賃宿 も常識的に知ってほしい。伝馬役や継飛脚 (幕府が使用する公用の飛脚) の差配 (手配) をする問屋場が設けられた。関所のポイントは「中世の関所は 関銭 (経済) 目的、近世の関所は 治安目的」である。具体例の中でも東海道の 箱根・新居 は頻出。

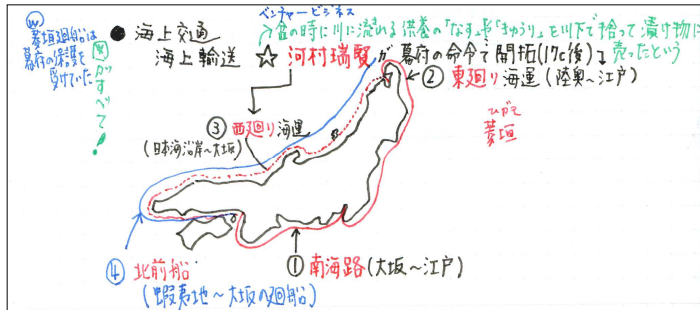
- ・ 宿駅 (宿場) …2~3里毎に宿泊施設 一定数の人足・馬 (伝馬) を配置
 - ・ 本陣・脇本陣 …大名や役人 旅籠・木賃宿 …一般
 - ・ 問屋場 …人馬継立など事務を担当 不足分は周辺の 助郷役 で補う
- 飛脚制度 → 継飛脚 (幕府の公用)・大名飛脚 (大名)・町飛脚 (民営)
 - 東海道を90時間で走った、急御用は68時間
 - 三度飛脚 (月3回 東海道を6日で 定六・飛脚とも) → 飛脚問屋が運営

町飛脚は、書簡や金銀など小貨物を送り届けるもので、継飛脚 {つぎびきやく}・大名飛脚・町飛脚があった。継飛脚は幕府公用の飛脚で、各宿場で人馬を継ぎ替えた。18世紀中頃には、東海道を約90時間、急ぎは約68時間で届けた。大名飛脚は、大名が江戸と国元間に置いた飛脚である。町飛脚は民間営業の飛脚で、毎月3度大坂を発し、東海道を6日で走ったので、三度飛脚とか定六 {じょうろく} と呼ばれた。

海上交通も下記の図がすべて。江戸・大坂間の航路を 南海路 といい、ここに 菱垣廻船 と 樽廻船 が就航した。樽廻船の語源は樽詰めにした「酒」を運んだことにある。「しょう油やみそ」という正誤問題があったが、基本的に物資は大坂から江戸へ運ばれたこと。そして酒は灘や伏見の関西で造られていたことを考えるところ。

なお、樽廻船 のほうが船足が速く、次第に菱垣廻船は圧迫されていったこと。江戸十組問屋 (後述) はその菱垣廻船を差配したことも、正誤問題で問われている。

これに対して酒田など日本海沿岸の港をでて、津軽海峡経由で江戸へ入るルートを 東廻り 海運 (航路)。関門海峡から瀬戸内海を経て大坂へ入るルートを 西廻り 海運 (航路) といい、ともに16世紀後半に 河村瑞賢 によって開かれた。



■水上交通 ※物資の大量輸送に便利 → 廻船 (大型船) の発達
河川輸送 角倉了以 (京の豪商) の活躍…幕命で 高瀬川・富士川・保津川などに水路

他にも、淀川・利根川 (流路を変更)、最上川などは重要
海上輸送 ☆材木商 → 河村瑞賢 が幕府の命令で開拓 (17世紀後半)

1730. 十組問屋から 酒 問屋が独立 → 樽廻船 (船足が早い) が輸送…徐々に菱垣廻船を圧倒

- ☆ 三都 の発達
 - ・ 江戸 …將軍の城下町 100万人
明暦の大火で市街再編成 後期に繁栄 「八百八町」
 - ・ 大坂 …商業都市 (天下の台所)
35万人 諸藩の 蔵屋敷 中期に繁栄 「八百八橋」
 - ・ 京都 …皇居の所在地 40万人 美術・工芸文化 「八百八寺」
- ※ 上方 …大坂・京都を含む近畿地方を指す言い方 ☆江戸へ送られる商品は「下り物」このほか、名古屋 (尾張徳川家)、金沢 (加賀前田家) など城下町の発展

【近世 06】(2008年・本)江戸時代の貨幣。

1. 幕府が銀座を開設し、丁銀・豆板銀を鑄造させた。
2. 外国人が銀貨を日本に持ち込み、多量の金貨を海外へ持ち出した。
3. 金貨の単位で表された銀貨が、はじめて鑄造された。

【近世 06 解答】 [1→3→2] 1. 銀座が開設されたのは、江戸時代初期 (17世紀初頭)。3. 南鐮二朱銀のこと、田沼時代 (18世紀後半) に鑄造された。2. 安政の五カ国条約締結後の貿易開始により、日本は欧米に比して金安・銀高だったため金が海外へ流出した。

【2008一本】

16世紀から17世紀にかけては日本国内の各地で鉱山開発が進み、a: 多くの銀が産出されるようになり、海外に輸出された。17世紀の半ばを過ぎるころには、銀の産出量は [ア] した。さらに、長崎へ来航する貿易船が増加したことも加わって、幕府は銀の輸出をしないで [イ] するようになった。

このような貿易をめぐる状況の変化を受けて、従来は輸入していた産物について日本国内での生産を進める政策が実施された。たとえば、b: 対馬藩を通じて輸入していた朝鮮人参は、幕府が栽培を成功させ、諸藩にも栽培を奨励した。その結果、国内の需要にこたえるだけでなく、18世紀末以降、長崎を通じて中国に輸出されるまでになった。

空欄に入る語句の組合せとして正しいものを、次から一つ選べ。

1. アー増加 イー奨励
2. アー増加 イー制限
3. アー減少 イー奨励
4. アー減少 イー制限

下線部 b に関連して述べた文として誤っているものを、次から一つ選べ。

1. 対馬藩は、己酉約条を結んで朝鮮貿易を独占した。
2. 対馬藩は、釜山に置かれた倭館に貿易船を派遣した。
3. 幕府は、株仲間を解散して朝鮮人参産座を設けさせた。

武器としての日本史

Pain is inevitable Suffering is optional

4. 幕府は、朝鮮人参とともに甘藷の普及にもつとめた。

答➡

【2008-本】

次の史料は、大蔵永常『広益国産考』の一節である。

倩 {つらつら} 国産の事を考ふるに、c : 国に其 {その} 品なくして他国より求むるをふせぎ、多く作りて他国へ出し其価を我国へ取入れ、民を潤し国を賑 {にぎわ} す事肝要ならんかし。扱 {さて}、昔より今に冠たる産物は、d : 薩摩の砂糖、中国・土佐の紙、九州の蠟 {ろう}、[e : 畿内の綿]、出羽の紅花 {べにばな}、越後縮 {ちぢみ}、奈良晒 {さらし}、京都の織ものは云 {い} ふも更なり、(後略)

問1 下線部 c と同様の意図をもって実施された諸藩の政策について述べた文として正しいものを、次から一つ選べ。

- 1. 特産物の生産を奨励し、専売制を実施した。
- 2. 綿花や菜種などの商品作物の栽培を制限した。
- 3. 城下町を建設し、商工業者を集住させた。
- 4. 百姓が他国に出稼ぎに行くことを制限した。

問2 下線部 d に関連して、江戸時代の薩摩藩に関して述べた次の文 X～Z について、その正誤の組合せとして正しいものを、下から一つ選べ。

X 奄美三島 (奄美諸島) を支配して、砂糖を生産させた。
 Y 琉球を通じて中国との密貿易を行い、利益を得た。
 Z 生麦事件の報復にきたフランス艦隊と交戦した。

- 1. X-正 Y-正 Z-誤 2. X-正 Y-誤 Z-誤
- 3. X-誤 Y-正 Z-正 4. X-誤 Y-誤 Z-正

問3 下線部 e の綿と関連した近世の産業について述べた次の文 X・Y と、その産物 a～d との組合せとして正しいものを、下から一つ選べ。

X 九十九里浜で地引 (曳) 網により捕獲されて、綿作などの肥料に加工された。
 Y 阿波国 (徳島県) でさかんに栽培されて、木綿などの染料に加工された。

a. 鯨 b. 鯛 c. 藍 d. 櫛

- 1. X-a Y-c 2. X-a Y-d 3. X-b Y-c 4. X-b Y-d

【2007-本】

1622年に伊勢国松坂で生まれた [ウ] は、はじめ兄が江戸で営んでいた呉服店で働いて経験を積み、後に松坂に戻って金融業を中心にして富を蓄積した。

1673年に彼は江戸に越後屋呉服店を開業すると、息子たちをその経営に当たらせた。一方、高級織物の産地であった [エ] には仕入れ店を設けて、c : 江戸店に供給する呉服を確

保した。

彼は越後屋の開業にあたって「現金 (銀) 掛け値無し」という経営方針を打ち立てた。当時としては画期的なこの商法は人々に歓迎され、越後屋は大きく発展した。さらに三都に両替店も展開し、後に大財閥に発展する一族の基礎を築いた彼は、1694年にその生涯を閉じた。
問1 空欄に入る語句の組合せとして正しいものを、下から一つ選べ。

- 1. ウー三井高利 エー京都
- 2. ウー三井高利 エー大坂
- 3. ウー鴻池善右衛門 エー京都
- 4. ウー鴻池善右衛門 エー大坂

問2 下線部 c に関連して、江戸と上方との経済的な関係について述べた文として正しいものを、下から一つ選べ。

- 1. 江戸では主に銀貨が、上方では主に金貨が使われた。
- 2. 菱垣廻船が上方の商品を江戸に運んだ。
- 3. 上方の商品を取り扱う商人たちは、江戸で二十四組問屋を結成した。
- 4. 木綿や菜種は、江戸周辺で盛んに生産されて上方に送られた。

問3 [ウ] の人物が生きた時代の出来事を述べた次の文 X～Z について、その正誤の組合せとして正しいものを、下から一つ選べ。

X シャクシャインに率いられたアイヌの人々が松前藩と戦った。
 Y 山崎闇斎が、儒教 (朱子学) と神道を融合させて垂加神道を開いた。
 Z 高山右近の旧領である天草・島原で大規模な一揆が起こった。

- 1. X正 Y正 Z誤 2. X正 Y誤 Z誤
- 3. X誤 Y正 Z正 4. X誤 Y誤 Z正

問4 江戸時代の農民の家や暮らしに関して述べた文 X～Z について、その正誤の組合せとして正しいものを、下から一つ選べ。

X 田畑の相続にあたって、分割相続が奨励された。
 Y 離縁状 (三下り半・三行半) は、再婚を許可する役割も果たした。
 Z 信仰のための組織として、庚申講などがつくられた。

- (1) X正 Y正 Z誤
- (2) X正 Y誤 Z誤
- (3) X誤 Y正 Z正
- (4) X誤 Y誤 Z正